

〈2〉 敬語

敬語には、相手を尊重し、高めて敬う「尊敬語」、相手を高めるために自分や自社をへりくだって表現する「謙讓語」、丁寧に話すことで相手に敬意を表す「丁寧語」の3種類がある。敬語は相手やTPOに応じて使い分ける必要がある。

【敬語の一例】

言葉の例	尊敬語	謙讓語	丁寧語
会う	会われる お会いになる	お目にかかる お会いする	会います
行く	いらっしゃる お越しになる おいでになる	伺う 参上する 参る (～しに) 上がる	行きます
言う	おっしゃる 言われる	申し上げる 申す	言います
いる	いらっしゃる おいでになる	おる	います
受ける	お受けになる 受けられる	お受けする 承(うけたまわ)る 拝受(はいじゆ)する	受けます
借りる	お借りになる 借りられる	お借りする 拝借(はいしゃく)する	借ります
聞く	お聞きになる 聞かれる	伺う 承る お聞きする 拝聴(はいちょう)する	聞きます
着る	召す お召しになる	—	着ます
来る	いらっしゃる おいでになる お越しになる 見える お見えになる 来られる	参る	来ます
する	～なさる ～される	いたす	します
食べる	召し上がる お食べになる	いただく 頂戴する	食べます
見る	ご覧になる 見られる	拝見する	見ます

⑤の適量・適味は、いろいろな招待客がいる中で、全員が少し無理をすると食べきれぬ量、万人に美味しいと感じてもらえる味にすべき、という意味である。ウエディングのフルコース料理は、通常、全体ではほぼ1kgの分量になる（都市部などで約850～900g設定の会場もある）。ウエディングメニューにはおもてなしの意味があるので、大量の食べ残しを出さず、かつ十分に満足していただける分量設定が重要である。食べ方がわかりにくいメニューは、基本的に避けた方が無難である。

また、味についても、招待客は様々な地域から来る可能性があるため、突出した味付けのメニューは避けたほうがよい。例えば、長崎の卓袱料理は、長崎出身者が多い披露宴のメニューには適しているが、その他の地域の人には食べつけない料理であるため、招待客の顔ぶれによっては別な料理のほうがよい場合もある、などである。

⑥の非日常性については、おもてなしという観点から、ふだんはあまり口にしない食材や、高級食材（伊勢エビ、アワビ、A5ランクの牛肉など）、珍しい食材（トリュフ、キャビア、フォワグラなど）で「特別感」を演出する、という意味である。調理法も、家庭ではできない方法や技巧があることが望ましい。

⑦の安全・安心は、当然のことであるが、アレルギー対応をしていることもこの中に含まれる。また、旬ではないことが明らかな食材（秋のサワラ、冬のはもなど）は、冷凍食品であることを連想させるので、通年出回っている食材と旬の食材でメニューを構成することが求められる。

メニューづくりに必要な知識と対処

(1) アレルギーの知識

メニューづくりにあたっては、食物アレルギーの知識が不可欠である。厚生労働省によるアレルギー物質を含む食品表示の義務化は、下記の通りである。（2019年9月時点）

法令で規定する特定原材料（7品目）

卵、乳または乳製品、小麦、エビ、カニ、そば、ピーナッツ（微量混入、添加物のレベルでも表示義務がある）

表示を奨励する特定原材料（21品目）

アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン

法令で規定されている特定原材料のうち、「卵、乳または乳製品、小麦、エビ、カニ」は、食物アレルギーの症例数が多いことから指定されている。「そば、ピーナッツ」は、食物アレルギーの症状が重篤であることから指定されている。また、果物や野菜など、食べたあとに口の中が腫れたりかゆくなったりする「口腔アレルギー症候群」もある。

ブライダルコーディネーターは、こうしたアレルギーをもつ招待客に備え、メニューをつくる際にはどのメニューに、何の材料が入るかを把握しておく必要がある。食物アレルギーをもつ招待客へは特別メニューを用意し、調理場でのコンタミネーション（アレルギー物質の微量混入）がないよう、料理長とよく打合せする。

(2) 健康上の理由への対応

招待客の中には、糖尿病、高脂血症、高血圧など健康上の問題を抱えている方がいることもある。こうした健康上の理由については、低カロリー、低糖質、塩分控えめなどの特別メニューで対応する。食材を変更した場合でも、他の招待客と同様に食事を楽しんでいただけるよう、同じような盛り付け、付け合せを工夫する。

共和国の成立まで、2000年あまり国をもてなかったユダヤ民族に継承されて、世界中に広まった。正統派、保守派、改革派など、様々な教派があり、結婚式のしきたりや伝統も異なるが、共通するものも多くみられる。

ケトゥバ

ユダヤ教の結婚では、結婚式の前に「ケトゥバ (ketubah)」と呼ばれる結婚の契約書を交わす儀式があり、これをすませてから結婚式が行われる。

結婚式の進行

結婚式は、フッパー (chuppah) という天蓋の下で、ラビ (rabbi) というユダヤ教の神職者によって行われる。まず花嫁は花婿の右側に立ち、花婿のまわりを3回、あるいは7回まわる。3と7は聖書では神秘の数字とされる。そしてラビの祈祷が行われ、花婿と花嫁は1杯目のワインを口にす。次いで指輪の交換が行われるが、ユダヤ教独特の風習で、花婿は指輪を花嫁の右手の人さし指にはめる。ケトゥバが読み上げられ、ラビにより結婚の宣言がなされる。2杯目のワインを口にすると、最後に花婿がグラスを足で勢いよく踏んで割る「グラス割り」が行われるが、これもユダヤ教独特のものである。

披露宴

結婚式から披露宴までのあいだ、花婿と花嫁がふたりきりで過ごすイフッド (yichud) の時間がもうけられ、そのあと披露宴が行われる。ユダヤ教の披露宴には、「クレズマー (klezmer)」というユダヤの民族音楽と踊りが欠かせない。

〈2〉 イスラム教

イスラム教とは、唯一絶対神のアッラーを信仰し、最後の預言者たるマホメットを通して神がくださったとされるコーラン (クルアーン) の教えに従う一神教である。結婚はイスラム教においては「契約」であり、結婚後の生活に関して契約を結ぶことが結婚式となる。信者同士の結婚が原則だが、男性の場合、相手がユダヤ教やキリスト教などの一神教の信者であれば、改宗しなくても結婚することができる。

マハル

イスラムにおける結婚は、男性が女性に対して経済的な責任をもつべきと考えられている。そのため、結婚の契約時に、男性から女性に支払われる「マハル (mahr)」という結婚契約金の取り決めがなされる。

婚約

イスラムの結婚は見合いによるものが多い。子どもたちが成人する前後に両親が相手を探し、縁組をする。そしてマハルなどの条件が一致すれば結婚の準備が始まる。

結婚式

イスラムの伝統的な結婚式は、男女で分かれて行われるのが特色である。ニカ (nikah) という結婚式は、男性側で行われる。宗教的指導者と2人の証人の立会いのもと、花婿と花嫁側の代理人がマハルの内容を確認し、結婚の契約書にサインをするというのが式の内容で、その間、花嫁は別の場所で待機している。結婚式が終わると、花婿側 (男性)、花嫁側 (女性) に分かれたままワリマ (walima) という披露宴が始まる。花嫁側の披露宴は花婿側のごちそうの残りで行われるため、花婿側より遅れてスタートする。

第7章 結婚式

日本における代表的な挙式は、宗教に基づいた挙式と無宗教の挙式に二分される。宗教的な挙式スタイルとしては、キリスト教式、神前式、仏前式の3種類、無宗教の挙式スタイルとしては、人前式とシビル・マリッジが見られる。ここでは、それぞれのスタイルの特徴や式次第、席次について解説する。

1 キリスト教式

ここ数年、日本で最も人気がある結婚式のスタイルがキリスト教式で、結婚式全体の約6割を占めている。キリスト教の教会で式を挙げるには、新郎新婦のいずれかが信徒であることが原則となっているが、信徒の紹介や結婚講座の受講、結婚式前の礼拝参加などを条件に挙式を許可する教会も多い。

キリスト教の教派ではカトリックとプロテスタントの2派が代表的である。一般にカトリック教会は戒律が厳しいため、ほとんどの教会では信徒以外の結婚式を行わないとされる。プロテスタントの教会は信徒以外でも結婚式を認めるところが多く、ホテルや専門式場のチャペルでは、プロテスタントの式次第に則って式が行われていることが多い。

〈1〉カトリックとプロテスタント

カトリックは「ローマ・カトリック教会」とも呼ばれ、約10億人の信徒がいるとされる。聖書と並んで聖伝や教会の権威を重んじる教義主義をとる。戒律は厳しく、離婚は許されず、したがって再婚も許されない。

プロテスタントは「聖書のみ」に従うとする聖書主義をとり、ルーテル教会、バプテスト教会、カルヴァン派などの諸派がある。結婚はふたりの愛によって成立するという考えで、離婚・再婚も可能。カトリックとプロテスタントは教会用語や呼称に違いがあるので、注意が必要である。

【カトリックとプロテスタントのブライダルにおける違い】

	カトリック (旧教)	プロテスタント (新教)
司式者	神父	牧師
祈りの場所	聖堂 (みどろ)、祭壇	礼拝堂、祭壇
祈りの集会	ミサ	礼拝
神に捧げる歌	聖歌	賛美歌
十字架	キリストのついた十字架が多い	十字架のみ
洗礼	必ず受けなければならない	受けなくてもよい
離婚	認められない (離婚歴がある場合、挙式できない)	正当な理由があれば認められる

〈2〉ウエディング・パーティ (wedding party)

キリスト教の結婚式は、「ウエディング・パーティ」という家族や友人の協力のもとで行われる。この場合の「パーティ」とは「披露宴」のことではなく、「一行」とか「仲間」という意味。花嫁花婿に付き添っ

地には密接な関係があるので、ブライダルコーディネーターは生地の特徴を知り、ドレスコードやデザインに適したものを提案することが重要である。

サテン

代表的な素材で、上品な光沢と滑らかな手触りが特徴。

シャンタン

生糸と玉糸が交差している、マットな質感がある織物。軽量であるが落ち着いた雰囲気がある。本来はシルク製のいが、化繊のものもある。

タフタ

光沢と張りがある織物で、ドレープのあるドレスに陰影を与える時などに適する。高級感がある印象。

ジョーゼット

透けて見えるほど薄くしなやかな、平織りの生地。細かい凹凸で色に変化を与える。

チュール

六角形の網目状に薄く織った布地で、張りがあり、重ねて使うとボリューム感が出る。

オーガンジー

チュールよりも細かく透けて見える平織りの生地で、しなやかな張りがある。

シフォン

透けて見えるほど薄地の絹織物で、柔らかい。

レース

糸で模様などを編み込んだり、刺繍したりした布地。繊細に模様を編み込んだリバーレース、化学処理を施したケミカルレース、チュールなどに箔糸を刺繍したエンブroidalレースなどがある。

3 花嫁の洋装小物・アクセサリー

〈1〉洋装小物

ウエディングドレスを着用した際に必要になる正装用の小物には、以下のようなものがある。それぞれに種類があり、ブライダルテーマやドレスのデザインにあわせて選定するのがポイントとなる。

ベール

結婚式のときに着用し、一般にパーティではつけないが、ベールアップした状態でたらししておくケースもある。ドレスの裾よりも長いものが正式とされる。ベールは長さによって様々な種類があり、短いものからショルダー、エルボー、フィンガーチップ、**ワルツ、チャペル**、カテドラルと呼ばれている。

グローブ

本来はキリスト教教会で肌を隠すためにつける目的があったが、人前式や披露宴でもドレスにコーディネ